

～認知機能の低下を有する心不全患者を理解し、
自己管理支援、QOLの向上に活かそう～

日時: 2019年11月7日(木) 19:00～20:40 場所: 広島大学 広仁会館2階 大会議室

第14回心臓いきいきキャラバン研修会を開催しました。

2019年11月7日(木)広島大学広仁会館にて、心臓いきいきキャラバン研修会～認知機能の低下を有する心不全患者を理解し、自己管理支援、QOLの向上に活かそう～を開催しました。

当研修会は、医療・介護従事者への専門的な知識の普及、医療の質の向上を目的に開催しています。

広島県内の医療・介護関係者計88名(院外82名、院内6名)と、多くの方に参加いただきました。

開会の挨拶は、広島大学病院 看護部長 山本雅子(写真1)が、閉会の挨拶は、広島大学病院 心不全センター副センター長 木村浩彰(写真2)が行いました。



(写真1)



(写真2)

【一般講演】 19:05～19:30

認知機能障害が見落とされると、
心不全再入院リスクが**5倍**に

広島大学病院 診療支援部 リハビリテーション部門 塩田 繁人作業療法士より、「認知機能低下を呈した心不全患者の生活行為向上の支援」の演題で、講演がありました。

塩田作業療法士は、心不全患者の43%が認知機能低下を呈しており、認知機能障害が見落とされると、心不全再入院リスクが5倍になることを述べ、患者が安全・安楽に生活行為を行うことができるよう、生活に即した具体的な指導を行う必要があることを伝えられました(写真3)。



(写真3)

【教育講演】 19:40～20:35

日中の傾眠は、**せん妄**の可能性あり
早期発見が重要

広島市西部認知症疾患医療センターセンター長 岩崎 庸子医師より、「支援者が知っておきたい認知症の話」の演題で、講演がありました。

岩崎医師は、認知症とうつ病の症状は類似しており鑑別が難しいことや、認知症はいきなり進行するのではなく、数年かけて進行する疾患であること、医療・介護現場で多くみられるせん妄は、治療可能な病態であるが、見逃してしまうと認知機能が非可逆的に低下してしまうことを述べ、せん妄を見逃さないことが重要であると伝えられました(写真4)。



(写真4)

講演中、熱心にメモをとりながら聞いている方が多く、各講演後には質疑応答も行われ、有意義な研修会となりました(写真5、写真6)。

今後も、地域の医療・介護従事者向けの研修会を積極的に行っていきたいと思っております。



(写真5) 質疑応答 塩田繁人作業療法士



(写真6) 質疑応答 岩崎庸子医師